

# 平成20年度中間決算報告書

 80. Love  
TOKYO FM  
株式会社エフエム東京

平成 20 年 11 月 18 日

報道各位

株式会社エフエム東京

### 平成 20 年度中間業績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、原材料価格の高騰や輸出の減速に加え、米国に端を発した世界的な金融市場の混乱等の影響により企業収益が悪化し、景気の減速感が急速に広がりました。個人消費も物価の上昇による実質所得の減少や景気への不安感から低調に推移しました。

インターネットを中心とするメディア環境の構造変革が加速する中、こうした経済情勢の影響が加わり、新聞・雑誌・テレビ・ラジオの所謂マスコミ 4 媒体はいずれも広告収入の落ち込みが目立ち、放送事業者にとって厳しい環境が続きました。

このような状況の中、イベントの主催契約の見直しの影響等により当社の当中間会計期間の売上高は 76 億 4 千 1 百万円（前年同期比 14.2%減）となり、営業利益は 4 億 3 千 2 百万円（前年同期比 2.3%減）、経常利益は 4 億 9 千 2 百万円（前年同期比 9.8%減）、中間純利益は 2 億 2 千 9 百万円（前年同期比 38.4%減）となりました。

事業別の営業状況は以下のとおりです。

#### <放送事業活動>

FM 放送事業においては、「アース&ヒューマン・コンスシャス」の理念の下、FM 放送の原点に還り、リスナーの心に響く番組の追求に力を入れました。4 月番組改編では、平日のワイドゾーンを一新、国際弁護士・八代英輝氏をパーソナリティに迎えたニュースワイド「クロノス」（月～金曜 5：00～8：30 金曜担当はリサ・ステッグマイヤー）を始め、「ONCE」（月～木曜 11：30～13：55 金曜 11：30～12：55）、「DIARY」（月～金曜 14：00～16：55）の 3 つのワイド番組をスタートさせました。一方、土曜・日曜のゾーンでは、「サタデー・ウエイティング・バー」（土曜 17：00～17：55）、「ap bank radio! THE LAST WAVE」（土曜 22：00～22：55）、「Melodious Library」（日曜 10：00～10：30）、「あ、安部礼司」（日曜 17：00～17：55）、など、高いクリエイティビティと FM 放送らしさを兼ね備えた番組が引き続きリスナーからの高い支持を得ました。また、5 月に放送したウィリアムズ症候群の障害を持つ中学 3 年生の少女が音楽を通して成長していく姿と、彼女を取り巻く人々とのピュアな心の交流を描いた「苑子ちゃんの手紙」（5 月 29 日 21：00～21：55）は、その感動を呼ぶ内容が高い評価を受け、社団法人日本民間放送連盟が実施する「第 4 回日本放送文化大賞」ラジオ部門準グランプリを受賞しました（発表は 10 月 28 日）。

一方、8 月の北京オリンピックでは、注目の野球・女子マラソン競技の実況中継のほか、当社取材スタッフが日本人選手の活躍とその素顔、現地の盛り上がり等を放送でレポートしました。また、8 月には、国民的バンド サザンオールスターズの「真夏の大感謝祭 30 周年記念 LIVE」の最終日の模様を収録し、当社が中心となり全国民放 FM53 局での同時放送を実現（8 月 30 日 25：00～26：30）、大きな反響を呼びました。

こうした放送展開とともに、番組連動のクロスメディア展開に力を入れ、人気番組「松本人志の放送室」（土曜 26：00～27：00）の放送を収録した 10 枚組 CD ボックス・シリーズ（全 10 セット）の連続発売を開始しました。番組連動の携帯サイト、「MUSIC VILLAGE」では携帯端末の高機能化に対応し、従来のアーティストメールマガジンに加えて人気作家や漫画家の連載エッセイや着せ替えツール等のリッチコンテンツの開発に注力しました。また、10 代のリスナーを中心に高い支持を集める「SCHOOL OF LOCK!」（月～金曜 22：00～23：55）では、番組発のオフィシャル・ブック『SCHOOL OF LOCK! DAYS 2』を発売したほか、榎幻冬舎とのコラボレーションにより 10 代限定の新人文学賞「蒼き賞」を設

立しました。さらに同番組では10代限定のロックフェスティバル「閃光ライオット」、学園祭ライブツアー「YOUNG FLAG! '08」の開催など、幅広い分野にわたる活動を展開しました。また、番組と連動した物販事業の開発に向け、インターネットによる販売を目的とした新会社エフエムマーケティング㈱（持分法適用関連会社）を4月に設立しました。

地上デジタルラジオ放送に関しては、総務省が設置した「携帯端末向けマルチメディア放送サービス等の在り方に関する懇談会」の報告書（平成20年7月）において、「地方ブロック向けマルチメディア放送」を平成23年7月の地上テレビジョン放送完全デジタル化後のVHF帯LOW帯域（現行の1～3チャンネル）にて実現させる方向性が示されました。

（10月には総務省による技術方式の公募において、当社はNHKならびに中波各社とともにISDB-Tsb方式を共同提案いたしました。）また当社は、平成21年1月から開始予定の福岡地区ユビキタス特区での実証実験活動の準備を進めており、平成23年7月以降の本放送開始に向け、マルチメディア放送の免許取得を目指しております。

#### <企画・制作事業活動>

企画・制作事業においては、世界各国での大きな反響を受け昨年12月に開始した「BLUEMAN GROUP in TOKYO」のロングラン公演、映画「スター・ウォーズ」日本公開30周年を記念したイベント「スター・ウォーズ・セレブレーション」、アメリカを代表するバレエ団である「アメリカン・バレエ・シアター」日本公演、ミュージカル「リバー・ダンス」など、今年上半期のエンタテインメント界の話題となった大型イベントを実施しました。また、「サザンオールスターズ」30周年記念公演を始め、「SMAP」、「B'z」、「浜崎あゆみ」、「GLAY」などの国内人気アーティストのコンサートを主催したほか、クラシック音楽分野でも「アンドレア・ボチェッリ」、「ポール・ポッツ」、「ウィーン少年合唱団」の来日公演を手掛け、ファンの高い評価を得ました。今年で19回目となる「アースデー・コンサート」では、絢香、BONNIE PINK、ダニエル・パウターの3組のアーティストを日本武道館のステージに迎え、来日した中国国営放送・北京電台のDJ・スタッフによりコンサートの模様が環境汚染問題が深刻化する中国のリスナーに向けて放送されるなど、世界に向けて“アースコンシャス”メッセージを発信しました。

映画の分野では、人気コミックが原作となった話題作「デトロイト・メタル・シティ」（監督：李闘士男 主演：松山ケンイチ、松雪泰子）の製作に参画、観客動員数170万人を超えるヒットを記録しました。

なお、当中間連結会計期間の当社グループの売上高は、117億4千6百万円（前年同期比12.4%減）となり、営業利益は2億5千8百万円（前年同期比55.0%減）、経常利益は2億5千6百万円（前年同期比53.9%減）となりました。中間純利益は、特別損失の計上額の減少により4千2百万円（前年同期比3千3百万円増）となりました。

## 前年同期比較中間損益計算書(単体)

平成20年4月1日～平成20年9月30日

(単位:千円)

勘定科目	平成20年9月中間期 (H20. 4. 1～H20. 9. 30)	平成19年9月中間期 (H19. 4. 1～H19. 9. 30)	前年 同期比	予算比
売上高	7,641,807	8,903,842	85.8%	96.3%
売上原価	4,947,585	6,103,754	81.1%	97.3%
売上総利益	2,694,222	2,800,088	96.2%	94.5%
販売費及び一般管理費	2,261,735	2,357,643	95.9%	94.7%
営業利益	432,487	442,444	97.7%	93.0%
(売上高営業利益率)	5.7%	5.0%		
営業外収益	170,489	213,929	79.7%	129.7%
営業外費用	110,687	110,588	100.1%	98.8%
経常利益	492,289	545,785	90.2%	101.6%
(売上高経常利益率)	6.4%	6.1%		
特別利益	37,650	—	—	—
特別損失	191,577	6,034	3174.7%	—
税引前中間純利益	338,361	539,750	62.7%	69.8%
法人税、住民税及び事業税	12,365	183,601	65.0%	50.0%
法人税等調整額	96,681	△ 15,942		
中間純利益	229,315	372,091	61.6%	86.1%

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前年同期比較売上高内訳書（単体）

平成20年4月1日～平成20年9月30日

（単位：千円）

	平成20年9月中間期 (H20. 4. 1～H20. 9. 30)	平成19年9月中間期 (H19. 4. 1～H19. 9. 30)	前年同期比
売上高	7,641,807	8,903,842	85.8%
放送事業収入	6,854,998	7,546,999	90.8%
放送収入	4,786,262	5,174,234	92.5%
タイム放送料	3,585,835	3,768,885	95.1%
スポット放送料	1,200,426	1,405,349	85.4%
制作収入	1,090,907	1,066,892	102.3%
その他	977,829	1,305,873	74.9%
企画事業収入	403,017	976,188	41.3%
賃貸事業収入	292,394	284,512	102.8%
その他事業収入	91,397	96,142	95.1%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 44期(上期)広告会社取り扱い順位

### <総合順位>

44期	43期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツー ディ・ケイ
4	14	オフィスフラッグス
5	3	ビデオプロモーション
6	7	ガイアコミュニケーションズ
7	10	オリコム
8	13	マッキャンエリクソン
9	6	毎日広告社
10	9	京橋エイジェンシー

### <タイム>

44期	43期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	9	アサツー ディ・ケイ
4	8	オフィスフラッグス
5	3	ビデオプロモーション
6	4	コスモコミュニケーションズ
7	6	オリコム
8	13	ガイアコミュニケーションズ
9	10	マッキャンエリクソン
10	-	電通名鉄コミュニケーションズ

### <スポット>

44期	43期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	5	三晃社
5	6	京橋エイジェンシー
6	4	毎日広告社
7	7	ガイアコミュニケーションズ
8	13	東急エージェンシー
9	8	アイアンドエス・ビービーディーオー
10	11	マッキャンエリクソン

## 前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成20年4月1日～平成20年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成20年9月中間期 (H20. 4. 1～H20. 9. 30)	平成19年9月中間期 (H19. 4. 1～H19. 9. 30)	前年 同期比
売上高	11,746,100	13,414,514	87.6%
売上原価	7,992,601	9,130,729	87.5%
売上総利益	3,753,498	4,283,784	87.6%
販売費及び一般管理費	3,495,322	3,710,003	94.2%
（内のれん償却額）	51,616	64,604	79.9%
営業利益	258,175	573,781	45.0%
（売上高営業利益率）	2.2%	4.3%	
営業外収益	145,935	114,806	127.1%
営業外費用	147,169	131,771	111.7%
経常利益	256,941	556,816	46.1%
（売上高経常利益率）	2.2%	4.2%	
特別利益	149,944	22,155	676.8%
特別損失	213,601	437,371	48.8%
税金等調整前中間純利益	193,284	141,600	136.5%
法人税、住民税及び事業税	124,925	334,611	37.3%
法人税等調整額	89,215	△ 32,065	—
少数株主利益	△ 62,984	△ 170,031	—
中間純利益	42,128	9,086	463.7%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 平成20年9月中間期決算短信

平成20年11月18日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員総務局長 (氏名) 小林 哲

TEL (03)3221-0080

配当支払開始予定日 平成20年12月15日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成20年9月中間期の連結業績 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年9月中間期	11,746	△ 12.4	258	△ 55.0	256	△ 53.9	42	363.6
19年9月中間期	13,414	△ 16.7	573	—	556	—	9	—
20年3月期	25,989	—	225	—	220	—	△ 182	—

	1株当たり中間 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年9月中間期	47	02	—	—
19年9月中間期	10	14	—	—
20年3月期	△ 203	72	—	—

(参考) 持分法投資損益 20年9月中間期 51百万円 19年9月中間期 31百万円 20年3月期 81百万円

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭
20年9月中間期	42,420	23,091	23,091	23,091	53.8	25,486	22
19年9月中間期	46,917	28,362	28,362	28,362	50.4	26,413	98
20年3月期	45,136	26,975	26,975	26,975	51.0	25,547	86

(参考) 自己資本 20年9月中間期 22,834百万円 19年9月中間期 23,665百万円 20年3月期 22,889百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	中間期末		期末	年間
	円	銭	円	
20年3月期	30	00	30	60
21年3月期	30	00	—	60
21年3月期(予想)	—	—	30	00

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	23,910	△ 8.0	369	64.0	434	96.9	480	—	536	06



4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無
- (2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(参考) 個別業績の概要

1. 平成20年9月中間期の個別業績（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年9月中間期	7,641	△14.2	432	△2.3	492	△9.8	229	△38.4
19年9月中間期	8,903	△22.0	442	27.7	545	△5.3	372	18.0
20年3月期	17,182	—	912	—	959	—	696	—

	1株当たり中間(当期)純利益	
	円	銭
20年9月中間期	254	79
19年9月中間期	413	44
20年3月期	774	7

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年9月中間期	39,792	23,158	58.2	25,732	21
19年9月中間期	38,964	23,252	59.7	25,836	2
20年3月期	38,359	23,007	60.0	25,564	17

2. 平成21年3月期の個別業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	15,950	△7.2	828	△9.2	1,000	4.2	887	27.3	985	69